

# 令和2年度豆類振興事業助成金(試験研究)の成果概要の要約

## ⑨課題:ダイズシストセンチュウ抵抗性金時品種の開発促進(元~3年度)

代表者:(地独)北海道立総合研究機構十勝農業試験場研究部 研究職員 長澤秀高

### 目的

菜豆の接種によるダイズシストセンチュウ(SCN)抵抗性検定法を確立し、遺伝資源の抵抗性検定を行うほか、金時のSCN減収程度を調査してSCNに対する特性の知見を集積する。また、母本として便利な赤系いんげんまめSCN抵抗性遺伝資源を探索し、この遺伝資源を活用した交配を行い、SCN抵抗性金時品種の開発を促進させる。

### 成果

#### ①SCN抵抗性接種検定手法の確立

・播種し、7~14日後にSCNを1セルあたり2,500頭以上接種し、接種35日を目安に雌成虫を肉眼計数する検定手法を確立した。

#### ②品種・遺伝資源のSCN抵抗性接種検定

・SCNレース3発生ほ場で抵抗性が期待された品種・遺伝資源等について、SCNレース1抵抗性接種検定を行ったが、抵抗性とは判断されなかった。

#### ③SCN寄生による減収被害調査

・子実重のばらつきが大きいものの、播種直後のSCN密度と子実重との間には統計学的に有意な負の相関が認められた。

#### ④SCN抵抗性金時品種開発に向けた新規交配および遺伝資源探索

・SCN発生ほ場において菜豆遺伝資源118品種・系統を供試してSCNの寄生程度を調査したところ、1品種、5系統、2遺伝資源が抵抗性と判定された。

